

SAMPLE



フェアな価格 確かな信頼

ローリーラック

Lorry Rack

お申し込み >

試読 >

☆RIM LORRY RACK PRICE INTELLIGENCE DAILY

★No. 6238 Sep 6 2024

Copyright (C) 2024 RIM Intelligence Co. All rights reserved.

「リム価格」は登録商標です 登録番号・第5387777号

「4リム価格」は登録商標です 登録番号・第5660925号

「リムラック価格」は登録商標です 登録番号・第5660926号

◎お知らせ

OPRA原則遵守に関する検証報告書の公開

リム情報開発は2023年12月20日、証券監督者国際機構 (IOSCO) により定められた石油価格報告機関 (PRA) に対する原則の遵守に関しまして、合理的保証に基づく検証報告書をウェブで公開しました。当社が発刊する全ての日刊レポートが対象となります。

<対象レポート>バンカーオイル、原油・コンデンセート、アジア石油製品 (Products)、LPG、ローリーラック、ジャパン石油製品、石油化学、LNG、電力

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/pramenu4/>

○季刊誌『エネルギー通信』第21号発売のお知らせ

リム情報開発は8月20日、エネルギーの「いま」をまとめて把握できる季刊誌『エネルギー通信』第21号を発行しました。今号では、政府が行っている石油・ガス・電気に対する価格激変緩和措置をまとめました。また、脱炭素化に向けた世界の動きとして、アンモニアや水素などの新燃料の動向、化石燃料のカーボンニュートラル化、脱炭素化に取り組む自動車業界の最新事情を取り上げました。『エネルギー通信』第21号でぜひご覧下さい。

『エネルギー通信』は、WEBで閲覧いただくことができます。お申込み・お問い合わせはこちら

URL: <https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/eneletter/>

エネルギー通信チーム TEL: 03-3552-2411 / Email: info@rim-intelligence.co.jp

◎リムエネルギー総合指数22種(レックス22、2010年平均=100)

6日のレックス22は、前日から1.78ポイント下落し160.92です

----- リムレポートのご紹介 -----

リム情報開発のレポートラインアップは、下記のURLからアクセスください。

各レポートのサンプルに加え、内容についての詳細な説明がご覧いただけます。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/report/>

原油・コンデンセート	アジア石油製品	バンカーオイル
ローリーラック (国内陸上)	ジャパン石油製品 (国内海上)	LPG LNG
石油化学	ポリオレフィン	電力
バイオマス (週刊)	デイリーデータ	Rim Data File
クリーンエネルギー (週刊)	CROSS VIEW軽油/重油	エネルギー通信

東京時間2024年9月6日金曜日17時30分<Assessment Closing Time>

◎東名阪製油所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	千葉	中値	前日比	川崎	中値	前日比	京浜中値	前日比
ガソリン#	132.2~133.2	132.70	-0.80	132.3~133.3	132.80	-0.60	132.75	-0.70
ガソリン	78.4~79.4	78.90	-0.80	78.5~79.5	79.00	-0.60	78.95	-0.70
灯油	79.5~80.0	79.75	-0.10	79.5~80.0	79.75	-0.10	79.75	-0.10
課税軽油	76.8~77.5	77.15	-0.20	76.8~77.5	77.15	-0.20	77.15	-0.20
未課税軽油	78.0~78.5	78.25	-0.25	78.0~78.5	78.25	-0.25	78.25	-0.25
A重油	77.0~77.6	77.30	-0.35	77.0~77.6	77.30	-0.35	77.30	-0.35
LSA重油	77.5~78.1	77.80	-0.35	77.5~78.1	77.80	-0.35	77.80	-0.35

油種	中京	中値	前日比	阪神	中値	前日比	4リム中値	前日比
ガソリン#	132.6~133.3	132.95	-0.80	132.6~133.3	132.95	-0.45	132.85	-0.66
ガソリン	78.8~79.5	79.15	-0.80	78.8~79.5	79.15	-0.45	79.05	-0.66
灯油	79.8~80.2	80.00	-0.05	79.7~80.3	80.00	-0.05	79.88	-0.07
課税軽油	76.8~77.4	77.10	-0.35	76.2~76.9	76.55	-0.30	76.99	-0.26
未課税軽油	78.8~79.2	79.00	-0.10	78.8~79.2	79.00	0.00	78.63	-0.15
A重油	77.3~77.7	77.50	-0.15	77.3~77.8	77.55	0.00	77.41	-0.22
LSA重油	77.8~78.2	78.00	-0.15	77.8~78.3	78.05	0.00	77.91	-0.22

◎東名阪油槽所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	八潮	中値	前日比	横浜	中値	前日比	京浜中値	前日比
ガソリン#	133.5~134.0	133.75	-0.60	135.0~135.5	135.25	-0.50	134.50	-0.55
ガソリン	79.7~80.2	79.95	-0.60	81.2~81.7	81.45	-0.50	80.70	-0.55
灯油	80.3~80.7	80.50	0.00	79.5~80.0	79.75	-0.50	80.13	-0.25
軽油	78.5~79.2	78.85	-0.85	77.8~78.5	78.15	0.00	78.50	-0.43
LSA重油	77.7~78.2	77.95	-1.30	78.5~79.0	78.75	-0.75	78.35	-1.03

油種	中京	中値	前日比	阪神	中値	前日比	油槽所中値	前日比
ガソリン#	133.5~133.8	133.65	-0.55	133.0~133.8	133.40	-0.45	134.01	-0.53
ガソリン	79.7~80.0	79.85	-0.55	79.2~80.0	79.60	-0.45	80.21	-0.53
灯油	79.8~80.3	80.05	0.00	80.0~80.5	80.25	-0.30	80.14	-0.20
軽油	77.7~78.1	77.90	-0.35	77.7~78.7	78.20	-0.30	78.28	-0.37
LSA重油	78.0~78.4	78.20	-0.50	78.0~78.5	78.25	0.00	78.29	-0.64

※ガソリン#は揮発油税込み価格、ガソリンは揮発油税抜き価格

※前日比は中値ベース

※中値は小数点第3位を四捨五入

※製油所の京浜中値は千葉・川崎中値の単純平均値

※4リム中値は千葉・川崎・中京・阪神製油所の単純平均値

※油槽所の京浜中値は八潮・横浜中値の単純平均値

※油槽所中値は八潮・横浜・中京・阪神の単純平均値

※4リム中値を使用した月間平均値はスペシャルコンテンツ掲載の数値と誤差が生じる場合があります

※公式のリム価格月間平均値はスペシャルコンテンツ掲載の数値となります

※ローリーラック価格、輸入採算価格、海陸市況格差、先物のガソリンはレギュラーが対象で揮発油税53.8円を含まず

※軽油は軽油引取り税32.1円を含まず

※原油輸入平均CIF価格の r は修正

※為替は三菱UFJ銀行が午前10時30分に発表する数値を使用

◎東名阪製油所・油槽所出し中値平均値 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	京浜地区	前日比	中京地区	前日比	阪神地区	前日比
ガソリン#	133.63	-0.62	133.30	-0.68	133.18	-0.45
ガソリン	79.83	-0.62	79.50	-0.68	79.38	-0.45
灯油	79.94	-0.17	80.03	-0.02	80.13	-0.17
軽油	77.97	-0.29	78.00	-0.27	77.92	-0.20
A重油	77.30	-0.35	77.50	-0.15	77.55	0.00
LSA重油	78.08	-0.68	78.10	-0.33	78.15	0.00

※ガソリン#は揮発油税込み価格、ガソリンは揮発油税抜き価格

※A重油は製油所平均値

◎その他の製油所・油槽所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	北海道	中値	前日比	仙台	中値	前日比
ガソリン#	134.4~135.4	134.90	-0.80	134.3~134.5	134.40	-0.25
ガソリン	80.6~81.6	81.10	-0.80	80.5~80.7	80.60	-0.25
灯油	79.8~80.2	80.00	-0.15	79.7~80.1	79.90	-0.25
軽油	77.8~78.8	78.30	-0.50	77.3~77.8	77.55	-0.20
A重油	78.0~78.3	78.15	0.00	77.3~77.6	77.45	-0.05
LSA重油	-	-	-	77.8~78.1	77.95	-0.05

油種	四国	中値	前日比	福岡	中値	前日比
ガソリン#	133.4~133.6	133.50	-0.75	135.8~136.2	136.00	-0.35
ガソリン	79.6~79.8	79.70	-0.75	82.0~82.4	82.20	-0.35
灯油	80.5~80.8	80.65	-0.10	81.8~82.3	82.05	-0.20
軽油	77.0~77.5	77.25	-0.30	78.8~79.5	79.15	-0.75
A重油	77.9~78.5	78.20	-0.05	80.5~81.0	80.75	-0.45
LSA重油	78.4~79.0	78.70	-0.05	81.0~81.5	81.25	-0.45

※ガソリン#は揮発油税込み価格、ガソリンは揮発油税抜き価格

◎SS向けスポット卸市況 (円/リットル、ローリー届け、1.5~2円運賃圏)

油種	京浜	前日比	中京	前日比	阪神	前日比
ガソリン	134.5~135.5	-0.5	135.5~136.0	0.0	134.5~135.5	0.0
灯油	81.0~82.0	0.0	81.5~82.0	0.0	82.0~83.0	0.0
軽油	111.5~112.0	-0.3	112.0~113.0	0.0	111.0~112.0	0.0

◎ユーザー向け産業燃料油市況 (円/リットル、ローリー届け、1.5~2円以下運賃圏、大口向け、週決め)

油種	京浜	前日比	中京	前日比	阪神	前日比
灯油	80.5~81.5	0.0	81.0~81.5	0.0	81.5~82.5	0.0
軽油	110.5~111.5	-0.3	111.5~112.5	0.0	110.0~111.0	0.0
A重油	78.5~79.0	-0.3	79.0~79.5	0.0	79.0~80.0	0.0
LSA重油	79.0~79.5	-0.3	79.5~80.0	0.0	79.5~80.5	0.0

※前日比は中値ベース

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の京浜地区は製油所の京浜中値と油槽所の京浜中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の中京地区は製油所の中京中値と油槽所の中京中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の阪神地区は製油所の阪神中値と油槽所の阪神中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の軽油は製油所の課税、未課税、油槽所の単純平均値

※SS向けスポット卸市況およびユーザー向け産業燃料油市況は揮発油税・軽油引取り税を含む

※中値は小数点第3位を四捨五入

◎輸入採算価格 (SR船型、韓国出し、関税・石油石炭税込、円/kl)

	北海道	前日比	京浜	前日比	中京	前日比	関門	前日比
ガソリン	79,763	-973	79,128	-971	78,856	-969	78,493	-968
灯油	86,070	-453	85,435	-451	85,163	-450	84,800	-448
軽油	85,794	-450	85,159	-448	84,887	-446	84,524	-445
LSA重油	78,161	-435	77,526	-432	77,254	-431	76,891	-430

※SR船型による輸入、LSA重油は免税ベース、軽油は硫黄分10ppm

※輸入採算価格はリムアジア製品レポート掲載のシンガポール市況(ペーパー)の9月限をベース

◎海陸市況格差 (陸上4製油所平均-海上バージ市況)

ガソリン	-1.20	灯油	+0.38	未課税軽油	-1.27
A重油	-1.39	LSA重油	-1.39		

※4製油所平均=千葉、川崎、中京、阪神

◎指標原油

WTI (NYMEX	10月限,	\$/bbl,	9/5	close)	69.15	-0.05
WTI (NYMEX ACCESS	10月限,	\$/bbl,	9/6	5:00pm 東京時間)	69.50	+0.35
ドバイ (ペーパースワップ,		\$/bbl,	9/6	東京夕刻)	73.16 ~ 73.20	+0.27
ドバイ (ペーパースワップ,		円/kl,	9/6	東京夕刻)	66,394	-7
ドバイ (ペーパースワップ,		円/kl,	9/2~9/6	平均)	68,452	-1,098
ドバイ (ペーパースワップ,		円/kl,	8/23~8/29	平均)	71,456	+314
東商取ドバイ原油当限		(円/kl,	9/6	引け)	66,150	-450

◎原油輸入平均CIF価格 (JCC、円/kl、財務省)

24/06/01-30	86,628r	24/07/01-31	88,326r	24/08/01-31	9月18日発表予定
24/06/01-10	86,912	24/07/01-10	87,919	24/08/01-10	85,875
24/06/11-20	86,659	24/07/11-20	89,028	24/08/11-20	82,040
24/06/21-30	85,914	24/07/21-31	87,872	24/08/21-31	9月18日発表予定

◎Rim JCC予想値 (円/kl)

24/8月	82,700	±0	24/9月	75,130	-170	24/10月	72,450	-400
-------	--------	----	-------	--------	------	--------	--------	------

◎東商取バージ先物・日中取引(東京湾岸製油所・油槽所出しバージ取り、円/リットル)

ガスolin		始値	高値	安値	帳入値	前日比	出来高	
	10月限	-	-	-	81.00	-	-	
	11月限	-	-	-	81.00	-	-	
	12月限	-	-	-	81.00	-	-	
	1月限	-	-	-	81.00	-	-	
	2月限	-	-	-	81.00	-	-	
	3月限	-	-	-	81.00	-	-	
	合計							
灯油								
	10月限	-	-	-	80.00	-	-	
	11月限	-	-	-	80.00	-	-	
	12月限	-	-	-	80.00	-	-	
	1月限	-	-	-	80.00	-	-	
	2月限	-	-	-	80.00	-	-	
	3月限	-	-	-	80.00	-	-	
	合計							
軽油								
	10月限	-	-	-	81.40	+0.10	-	
	11月限	-	-	-	81.00	+0.10	-	
	12月限	-	-	-	80.60	+0.10	-	
	1月限	-	-	-	80.20	+0.10	-	
	2月限	-	-	-	79.80	+0.10	-	
	3月限	-	-	-	79.30	+0.10	-	
	合計							
原油								
	9月限	66.36	66.37	66.00	66.15	-0.45	39	
	10月限	64.32	64.34	63.83	63.98	-0.33	39	取組高 (9/5)
	11月限	63.50	63.61	63.50	63.60	+0.01	31	ガスolin 売 0 買 0
	12月限	62.89	62.98	62.44	62.60	-0.34	251	灯油 売 0 買 0
	1月限	62.49	62.64	61.99	62.20	-0.23	3,816	軽油 売 0 買 0
	2月限	62.24	62.31	61.70	61.95	-0.12	3,501	原油 売 31,365 買 31,365
	合計						7,677	1枚=50kl

◎東商取中京ローリー先物・日中取引(潮見油槽所出しローリー取り、円/リットル)

ガスolin		始値	高値	安値	帳入値	前日比	出来高	
	10月限	-	-	-	80.00	-	-	
	11月限	-	-	-	80.00	-	-	
	12月限	-	-	-	80.00	-	-	
	1月限	-	-	-	80.00	-	-	
	2月限	-	-	-	80.00	-	-	
	3月限	-	-	-	80.00	-	-	
	合計							
灯油								
	10月限	-	-	-	80.00	-	-	
	11月限	-	-	-	80.00	-	-	
	12月限	-	-	-	80.00	-	-	
	1月限	-	-	-	80.00	-	-	取組高 (9/5)
	2月限	-	-	-	80.00	-	-	ガスolin 売 0 買 0
	3月限	-	-	-	80.00	-	-	灯油 売 0 買 0
	合計							1枚=10kl

◎概況・トッパー停止状況=トッパー停止数・3基 停止率11.6%
○陸上ローリー市況

6日の東名阪4リム製油所出しは下振れ。とくにガソリンの売り込みが強まった。千葉と中京が前日比0.8円、川崎は同0.6円、阪神が同0.45円の下げ。原油安や円高進行に伴う翌週以降の補助金減額観測が手持ち業者に整理売りを焦らせている。

地方出荷地もガソリンが冴えない。9月入りで実需の鈍化も寄せられた。

○ドバイ原油市況
6日の価格動向

ドバイ価格(東京午後5時時点)	73.16~73.20 ドル	前日比+0.27 ドル
円建てドバイ価格	70.4 円	前日比±0.0 円
10月の国内製品コスト推定値(8/26~9/25)	72.1 円	9月平均比-5.1 円
平均推定値 火-月(9/3~9/9)	71.7 円	前週比-3.8 円
平均推定値 水-火(9/4~9/10)	70.6 円	前週比-4.5 円
8月の調整金(アラブ・ライト)	前月比-0.60 ドル	前月比-0.6 円程度
9月の調整金(アラブ・ライト)	前月比+0.20 ドル	前月比+0.2 円程度

※ドバイ原油:リム情報開発「原油・コンデンサート」レポート掲載のペーパーズワップ価格を参照

※国内製品コスト推定値 為替:三菱UFJ銀行TTS、石油石炭税込み

※平均推定値:国内の土日祝日は対象から除外

○元売り市中買い

民族系大手元売りは、この日もガソリンを千葉で100klあまり、阪神で50klほど手当てしたという。売り手は広域系1社。調達総量は1,600kl以上に上る。中京でもガソリンに買い気を示したものの、応じる売り手は現れず。

民族系最大手、民族系、中堅元売りは、引き続き沈黙している。

○9月のアセスメント評価対象について

- ① 9月最終発刊日の30日は月曜日となるため、アセスメントは通常どおり翌日の受渡物を評価対象とし、2~7日先までの受渡物が参考となります。

○JOXでのLPG試験上場における取引手数料と期間について

国内石油製品のオンライン取引市場を運営するJ-Oil Exchange Pte Ltd(JOX)は5月13日より液化石油ガス(LPG)の取引市場を試験開設しております。この度、市場関係者の皆さまのより一層の参加と取引の活性化を促すべく、7月29日(月)より試験上場期間中のLPG取引手数料を無料とし、当初9月ごろまでを予定しておりました試験上場期間も当面の間継続することとなりました。

JOXではLPG試験上場に伴いトレーダー会員を募集しております。

下記のサイトにてお申込みいただけますので、この機会にぜひご参加ください。

<https://www.j-oilexchange.net/>

◎北海道(苫小牧・石狩)

○概況

スポット流通玉市況は白油三品が続落。週末分から手持ち玉の消化売りが強まった。次週の燃料油補助金を巡る実質的な大幅減額予想が相場を冷やした節もある。灯油はスポット商談の閑散ぶりも依然伝わる。重油は横ばい。目ぼしい材料を欠いている。

○ガソリン

【苫小牧】前日比0.8円安の80.6～81.6円(揮発油税込み134.4～135.4円)。

続落。本州の市況の相対的な安さが波及し始めている。もっとも市場では需給のタイト感を指摘する声も依然として残留。相場に対する目線は市場関係者ごとの温度差が表れている。

7～9日出荷分は134.4～135.4円まで下振れ。民族系最大手元売りルートで134.4円の売唱えが聞こえ始めた。本州の製油所出しも含めた一律提示として、複数の卸業者が見積もりベースでこの価格提示を受けていた。市場では134.4円割れの売唱えも残るが、販路は限られていたもよう。

ディーラーにより134円台の玉は相対的に割安と捉える声もある。苫小牧埠頭で8月下旬に生じた棧橋トラブルの影響で卸業者の売り余力が回復しきらず、在庫玉を扱うディーラーの間では引き続き卸業者間の販売を

見合わせる動きがあるからだ。2～4klの小ロットの引き合いさえも「本当に出るのか売り手に確認する必要がある」(卸業者)。

もっとも134円台の玉は手当て困難と指摘するディーラーの間でも、135円台前半であれば「探れば玉が出てきそう」(同)で、前日と比較し135.4円超えの玉は競争力がやや剥落し始めた可能性がある。なお市場関係者によると、埠頭には週明け以降、転送船が入り、売りは足元より多少戻るとの観測がある。

【小売市況】札幌市内ではセルフサービス店が現金フリー172円程度、フルサービス店が同175円程度で推移。量販セルフ店は同167.8円程度となっている。今週の仕切り価格引き上げを受け、周辺では値上げを検討する事業者がいるものの、現時点で市況に表立った変化はないという。

また近隣ではコストコ石狩が会員価格154円で営業している。

○灯油

【苫小牧・石狩】前日比0.15円安の79.8～80.2円。

続落。気温の温暖さ、相場の先行き不透明感から依然として需要が冴えない。卸業者間では引き続き2023年9月の販売実績の少なさに起因する24年9月の月次枠の少なさが懸念されているものの、薄商いに焦れた売り手がここにきて値下げしている。

苫小牧出しの7～9日出荷分では民族系大手元売りの製油所出荷玉、在庫玉をベースとする79.8～80.2円の売唱えが浸透。前日時点で少なかった80円を割った玉がにわかに厚

みを増している。一部のディーラーは79.7円など79.8円割れで打ち出しているが、販路は限られていたもよう。

一方、表立った80円割れの価格対応は見送り、ひとまず80～80.2円で市場を静観する卸業者も複数いた。目先は薄商いを訴える声が専ら。値段を下げたところで期待どおりのオーダーが入らず、徒労に終わる可能性が高いと判断したディーラーの間では、価格競争から距離を置き、戦線離脱気味の雰囲気があった。足元は「引き合いがあれば、個別値下げの用意がある」(卸業者)との意見も伝わる。

ただ、実際は「引き合いがなく、個別交渉に進展しない」(同)という。いまのところ80.2円までで複数の卸業者が打ち出している。この他、石狩出しは83円台半ば～84円程度で変

わっていない。

【届け市況】道央圏向けは届け82円前後の商談イメージが寄せられている。

○軽油

【苫小牧】 前日比0.5円安の77.8～78.8円。

続落。手持ち玉の消化売りに押された。目先は仕切り価格月間平均値に連動した玉と思しき売り込みもちらほら。次週の燃料油補助金に関する実質大幅減額が確実視されており、一部ディーラーの間では減額前に月次枠を売り抜ける意向が透けるという。

7～9日渡しの課税玉では民族系大手元売りの製油所出荷玉を中心に77.8～78円台半ばの売唱えが聞かれた。月次枠消化を急ぐ卸業者が積極的に売り込んでいる。定期備車したタンクローリーの稼働率維持を狙った卸

業者が、インタンク向けで踏み込んでいるのも蔵取り玉の間接的な弱材料と目されている。局所的には77.8円割れの取引も進み始めた節がある。

もっとも現在の価格帯は不採算と苦慮するディーラーも散見。課税玉の商談水準は卸業者ごとに温度差が生じているのも実情だ。78.8円超えの課税玉に対する市場関係者の関心は伝わらず。

一方、未課税玉は79円台前半～80円程度で足踏み。課税玉と未課税玉の値差が広がっている。

○重油

【苫小牧】 A重油が前日並みの78.0～78.3円。

もち合った。新規材料待ちで変化を欠く。産業燃料向けなどの定期オーダーを淡々と捌くディーラーが多く、白油三品と比較すれば重油は地合いの底堅さが窺えた。

7～9日渡しのA重油では民族系大手元売りの製油所出荷玉、在庫玉を扱うディーラーが78～78.3円で打ち出している。この日は「78円台前半ならオーダーが入る」(卸業者)との声が点在。向け先により77円台後半の売り込みもあったが、基本的に78円割れの販売は見送る卸業者が多そうだ。78.3円超えの玉は引

き続き競争力を欠くという。

【周辺情報】 苫小牧港管理組合は脱炭素化に配慮した港湾「カーボンニュートラルポート」の形成を目指す取り組みを行っている。直近では出光興産らが船舶におけるバイオ混合燃料使用の実証試験を同港で実施。既存の船舶燃料であるA重油に代表的なバイオ燃料のひとつである「脂肪酸メチルエステル」(FAME)を24%混ぜた混合燃料を船に給油し、寒冷地の北海道でも10カ月間の運航に支障がないのを確認した。

◎東北(仙台)

○概況

スポット流通玉市況は弱含み。台風10号や9月に入ってから天候不順を背景とした販売不振、12日以上の補助金は現行から4円以上の減額も視野に入り、こうした動きを鑑みて下値を探ってオーダー喚起に努める卸業者が増えた。

複数の市場関係者によると、東西オイルターミナル秋田、昭友秋田で軽油の出荷規制が敷かれたと伝えた。一方、東西オイルターミナル青森B地区、酒田のレギュラーガソリンの規制は解除された。

○ガソリン

【仙台】80.5～80.7円（揮発油税込み134.3～134.5円）と前日比0.25円安。

製油所出荷玉を扱う商社系、広域ディーラー唱えは7日渡しから、広域大手が唱える134.4円を挟んだ水準に収れんされ、134.3～134.5円以上に集中。既報のとおり、ショートカバー買いの後退を受け多くの卸業者が下値を探る動きを強めた。また、近隣油槽所の出荷規制も7日渡しから解除されたことを材料視する向きもいた。

もっとも、市場で流通している玉は自社玉、系列対比で割高と見る向きも多く、業者間の取引は閑散としたまま。域内の届け取引ではEXパイプに換算すると133.5円以下の売買が一般的に進んでいることや、このところ、

月次で値決めしているディーラーはこれらを用いて足元の引き合いに対応するなど、デイリースポット玉に関心を寄せていない側面も大きかった。

【青森・八戸】足元では中堅元売り玉、民族系元売り玉をベースとした取引が中心。各社の唱えは135円を中心に134.5円前後～135.5円以上とまちまち。青森ではTOT油槽所の規制解除があったものの、販売再開の動きは乏しく、むしろ足元のマーケットチェックを進めて、来週の商談に備えている卸業者も目立った。台風10号や安定しない気候によるSSでの販売不振を背景に、潜在的な売り手が多そうと複数の指摘した。

○灯油

【仙台】79.7～80.1円と前日比0.25円安。

製油所出荷玉を扱う商社系、広域ディーラーの7日渡しからの唱えは79.7～80.1円以上と、80円を挟んだ価格帯で買い気を探っていたが、時間の経過とともに80円割れで買い気を探る卸業者が漸増。とくに域内は8月からの暑さが収まらないなか、米の収穫期で乾燥用需要が一定発生するが、今年は例年以上にこれらの需要が弱いという。こうした需要面の弱さもあり、一部79.5円前後の売りも点在。

また、青森、八戸では仙台のEXパイプに換算すると79.5円以下の売りが厚みを増した

ため、卸業者によっては仙台で利ザヤ確保した方が良いとの判断も働いたようだ。

もっとも、昨報のとおり、9月は前年実績を落として、販売枠を多く保有していないディーラーも存在。これらは80.1円超えを唱えて反応を探っていたが、商いに絡めずいるようだった。

【青森・八戸】民族系元売り玉を扱う卸業者が他の出し元玉を圧倒。複数ディーラーが81.5円前後を唱えてオーダー喚起に努めていた。主要出し元玉を扱う卸業者の唱えは81円台後半～82円台前半。民族系最大手玉、旧

外資系元売り玉を扱う卸業者の少数が81.5

円前後まで追隨する動きも出ていた。

○軽油

【仙台】77.3～77.8円と前日比0.2円安。

反落。製油所出荷ルート of 商社系、広域ディーラーの7日渡しからの唱えは課税が77.3～77.8円以上。未課税玉を扱うディーラーの唱えは78円台半ば～78円台後半。課税で77.5円前後、未課税で78円台後半まで複数が売買

を交わしていた。

【青森・八戸】民族系元売り玉、旧外資系元売り玉を扱う卸業者の唱えは課税で79.5円前後～80円前後に下振れ。未課税玉を扱うディーラーの唱えは81円台前半～81円台後半と変化を欠いた。

○重油

【仙台】A重油は77.3～77.6円、LSA重油は77.8～78.1円といずれも前日比0.05円安。

小反落。製油所出荷ルート of 商社系、広域ディーラーの7日渡しからの唱えは77.3～77.6円以上。LSA重油は0.5円高が主流。昨報のとおり、月次での販売不振を背景に77.5円を挟んだ価格帯で買い気を探る卸業者が多い。転売を含めて77.6円以下の出物が一定流通しているが、コストからのマージン圧縮余

地も限られ、実際の取引も狭いレンジで競り合っている様子が鮮明だった。

【青森・八戸】民族系元売り玉、主要出し元玉をベースとした各社の唱えは80.5円を中心に、79円台後半～80.5円以上。引き続き、80円以下の出物は民族系元売り玉に限られた。

◎京浜

○概況

千葉、川崎ともガソリンが弱い。原油安や為替の円高進行を受け、翌週以降の補助金減額観測を受け、補助金の動向に敏感な手持ち業者から踏み込んだ売り対応に動いた。8月の需要期を終え、足元で小売販売の鈍化も響く。

○ガソリン

【千葉製油所】前日比0.8円安の78.4～79.4円(揮発油税込み132.2～133.2円)。

続落。民族系玉を取り扱う卸業者から踏み込んだ売り込みが広がりを見せた。原油安や円高進行を見越し、翌週以降の補助金大幅減額観測から足元で手持ち玉の整理売りに動いた。132.2～132.5円の売唱えや実際のやり取りが複数寄せられたほか、転売玉も132円台後半に点在。地場間では133円の販価ではお呼びにもかからないとの声も。

8月は猛暑や行楽需要、さらに内外製油所

トラブルによる瞬間的なタイト感から市中玉が買われたものの、9月に入り製油所稼働は落ち着いているほか、台風も去り輸入玉が定期的に入着するとされ、需給の緩みを見越す声も漏れ伝わっている。8月には高値玉を調達した商社も9月入り後は極めて渋い対応に方針を切り替えたため、手持ち業者も販売に苦戦との声も聞く。製油所の安定稼働や小売りの鈍化、輸入玉の広がり観測など、卸業者間ではやや弱気な見方が強いようだ。小売販売業者によると、カレンダーの違いはある

にせよ、9月入り後は販売が前年比10%前後落ち込んでいるという。今後の三連休に実需回復を期待する声強い。

民族系最大手玉を取り扱う広域系は133.2円に販価を置き、買い手の反応で柔軟に対応したようだ。

また、市中買いを継続する民族系大手はこの日、134円で手当てしたと伝えられたものの、市場の関心はいまひとつだった。同社と商談を進めた売り手は同業向けにはシャープな対応も見え隠れ。

【八潮】 前日比0.6円安の79.7～80.2円(同133.5～134.0円)。

下振れ。広域系の一角が販価を見直し、相場間も追随。製油所市況の軟化で在庫玉の取り崩しが遅れているようだ。卸業者間で伝わった売買唱えは133.5～133.8円、134円など。

【川崎製油所】 前日比0.6円安の78.5～79.5円(揮発油税込み132.3～133.3円)。

続落。千葉同様に踏み込んだ売り込みが表面化。旧外資系出荷地では民族系玉を取り扱う卸業者間で132円台の売唱えが散見されたほか、民族系最大手玉を含め133.3円までに売買唱えが点在。

詳細は判然としないものの、水面下では132円前後のやり取りを伝える声も寄せられるなど、地合いは弱気に傾きつつあるようだ。

【横浜】 前日比0.5円安の81.2～81.7円(同135.0～135.5円)。

横浜ターミナル市況は続落。製油所や八潮市況を織り込み、売買アイデアは135～135.5円まで見直されている。

【川崎横浜平均】 前日比0.55円安の134.03円。

【東商取】 東商取バージ10月限は81円(同133.8円)で日中取引を終えた。原油9月限の続落を映し、クラックスプレッドは14.85円とさらに拡大した。

○灯油

【千葉・川崎製油所】 前日比0.1円安の79.5～80.0円。

千葉、川崎ともに小幅続落。実需の伸び悩みなどで地合いが弱い。目先は買いの決定打を欠いており、産業用需要などに紐づいたオーダーを抱えるディーラー以外、あえていま買う理由に乏しいとの意見がある。

7～9日出荷分は旧外資系元売りルートで79.5～80円の売唱えが聞かれた。同元売り玉を扱うディーラーの中には、向け先次第で79.5～80円のレンジで値差をつけて商談する動きも見え隠れ。80円超えは心理的に買い妙味を見出しにくいとの意見があり、購買力のある地場ディーラー向けでは前日同様79.5円まで売り込まれた様子がある。また民族系最大手元売りルートでは79円台後半～

80円程度の玉も点在。複数のディーラーがこの水準の玉の存在を指摘している。

【八潮・横浜】 八潮が前日並みの80.3～80.7円、横浜は前日比0.5円安79.5～80.0円。

八潮は横ばい。新規材料に乏しい。7～9日出荷分では80.5円の売唱えが残留。これに前後した80.3～80.7円の売り物も広く残った。80.7円超えの玉に対する市場関係者の関心は伝わらず。

横浜出しは軟化。製油所出しの下落につられた。7～9日出荷分では79.5～80円の商談が点在。市況は近隣の川崎出し並みで推移しており、80円超えの玉に対する買い手の反応は総じて鈍い。

【東商取】 灯油10月限は前日と同じ80円で日中取引を終えた。

○軽油

【千葉・川崎製油所】課税玉は前日比0.2円安の76.8～77.5円、未課税玉も同0.25円安の78.0～78.5円。

課税玉、課税玉ともに続落。ガソリンほどではないものの、手持ち玉の整理売りが広がった。

課税玉は、旧外資系玉や民族系最大手玉を取り扱う卸業者間で値下げ対応が広がり、76.7～77円、さらに77.5円の売買唱えが散見。今月は中間決算期となり、月後半にかけて数量確保のやり取りも想定されるなどの見方も根強いようだ。また、補助金の減額観測も足元での整理売りを強めている。判然としないもの、76円台半ばまで対応可と伝える卸業者もちらほら。

3日の横浜市交通局やこの日開札された川崎市交通局10～12月納め入札が踏み込んだ価格で落札されたことも心理的に弱気を誘っている。

未課税軽油も軟調。民族系最大手玉を取り扱う広域系中心に値下げ対応が広がり、78～78.5円の売買唱えが寄せられた。78.8円に

販価を置いた広域系は「オーダーがほとんどない」とぼやき気味。

【八潮・横浜】八潮は前日比0.85円安の78.5～79.2円、横浜は変わらずの77.8～78.5円。

八潮は下振れ。広域系の一角や地場間で値下げ対応が広がり、78.5～79円、79.2円などの売買唱えが点在。ガソリン同様、製油所市況の軟化で在庫の整理が遅れているようだ。

横浜は様子見。CTT玉を中心に広域系間で77.8～78円、78.5円となどの売買唱えが残り、次の材料待ち。

【交通局】川崎市交通局が6日開札した10～12月納め市バス向け軽油1,043klは、4ブロックすべてが届け107.1円で落札された。

内訳はAブロック212klがシナネン、Bブロック296kl、Cブロック200kl、Dブロック335klが中日本商事。市場関係者によると、EX換算73.5～74円に相当するという。10日に東京都交通局10～12月納め5,046klの入札が予定されている。

○重油

【千葉・川崎製油所】LSA重油が前日比0.35円安の77.5～78.1円。A重油はLSA重油比レス0.5円。

千葉、川崎ともに続落。前日時点で生じた月次枠の消化売りが続いている。

7～9日出荷分では民族系最大手元売りルートで77.5～78.1円の売唱えが聞かれた。全体的に77円台後半～78.1円の売り物に厚みがあるが、月次枠消化を急ぐ一部のディーラーは77.5円まで下値を探った様子がある。

また旧外資系元売りルートでは77円台後半～78.1円の売唱えが点在。実際のところ他のルートの玉も含めて見積もり上は78.5円

など78.1円超えの価格提示も多い。ただ、相対的に割高と受け止めるディーラーが散見。競争力はいまひとつという。

【八潮・横浜】八潮が前日比1.3円安の77.7～78.2円、横浜も同0.75円安の78.5～79.0円。

八潮、横浜ともに下落。製油所玉の相場下落の影響が波及している。7～9日出荷分は有力ディーラーの一角が78円まで値下げ。周辺ではこの玉を意識した77.7～78.2円の売唱えが厚みを増した。

また横浜出しは売買唱えがアイデアベース含みで78.5～79円へ下振れしている。

◎中京

○概況

製油所出荷が全面安。特にガソリンの下げ幅が大きい。次週の燃料油補助金の減額予想を受けて、売り圧力が極めて強かった。中間品も軟調。特に課税軽油も売り込みが強い。9月に入ってから、荷動きが低迷しているとの声もある。

9号地は灯油を除き切り下がった。在庫の消化に走る動きが散見される。

原油相場の動きに注目するディーラーも多い。6日には米国の雇用統計が発表され、内容次第では原油相場に影響を及ぼす可能性がある。「最近公表される各種の経済指標が弱いため、雇用統計の内容も弱いのではないか」との見方を示す卸業者もいた。

○ガソリン

【製油所】 前日から0.8円安の78.8～79.5円（揮発油税込み132.6～133.3円）。

大幅続落。次週の燃料油補助金の減額予想を背景に、民族系元売りルートからの売り込みが活発化している。別のルートでも民族系元売りルートを意識し、販価を下方修正する動きはあるが、「あまりにも安いため、追従するのは危険」と述べる卸業者もいた。

四日市では民族系元売り玉を扱う複数の卸業者から132.6～133.3円の売唱えが示され、相場を形成した。同ルートではこのほかに134円台の売り物も示されているが、134円台は高値圏に入りつつある。大手商社玉を扱う業者も一部133円台後半で買い気を探る動きを見せたが、民族系元売りルートの唱えに比べるとやや割高感が生まれていた。

愛知では、民族系最大手元売り玉を扱う複数のディーラーが、134.4～134.8円で買い気を探っていた。

民族系大手元売りは、引き続き134円付近の買唱えを入れたが、依然として売り手は現れ

ず。京浜と阪神では同じ価格で成約していた。

小売業者向けにはEXパイプに換算して、132円台半ば～133円付近で商談が進んだもよう。

【9号地】 前日から0.55円安の79.7～80.0円（揮発油税込み133.5～133.8円）。

続落。これまでの販価を見直し、受注喚起を図るディーラーが大勢だった。

地場大手タンク玉を扱う業者は133.5円に販価を引き下げ、売り込みを強めている。広域タンク玉を扱う業者も133.5～133.6円で追従する動きを見せた。商社タンク業者は、133.8円で追従。他社玉をベースに販価を組み立てたディーラーは134円台の唱えを示したが、134円台の玉に買い気を示す業者は限られた。

小売業者向けなどには132円台後半の玉も出回っているようだが、手当て可能な業者は限定的だった。

【先物市況】 東商取中京ローリー10月限の帳入値は前日比横ばいの133.8円。出来高はゼロ。

○灯油

【製油所】 前日比0.05円安の79.8～80.2円。

小幅安。週末分のオーダーを取り込もうと、一部の業者は他社提示を鑑みて売唱えに下方修正を加えた。ただ、下げ幅は限られている。販売数量が潤沢でない業者も多いようで、ガ

ソリンや課税軽油のような激しい売り込みは見られない。

四日市では旧外資系元売り玉を扱う業者などが79.8～80円で販売を進めている。民族系元売りルートからは、79.8～80.2円の唱えも

示されていた。

また、愛知も軟化。旧外資系元売りや民族系最大手元売りルートから79.8~80.2円の唱えが示されていた。四日市、愛知ともに80円を挟んだレベルで相場が推移している様子があった。

【9号地】前日から横ばいの79.8~80.3円。

もち合い。週末で販価を切り上げていったん様子見退くディーラーも散見された一方、製油所市況を鑑みて、売唱えを下方修正する動きもあった。ただ、中央値は前日から変わ

らず、横ばいとなった。

広域タンク玉を扱う業者が79.8円を売り唱えた。地場大手タンク玉を扱う業者は、80.3円までで販価を形成。商社タンクルートでも80.3円で販売を進める動きがあった。同ルートでは他に、80円台後半の唱えも示されていたが、やや割高感があった。民族系最大手元売りルートの唱えは81円台前半などで推移している。

【先物市況】東商取中京ローリー10月限の帳入値は前日比横ばいの80円。出来高はゼロ。

○軽油

【製油所(課税)】前日から0.35円安の76.8~77.4円。

軟調。月間平均に連動した仕入れを有する業者の売り込みが激しく、商談水準が日に日に切り下がっている。軽油もガソリンと同じく、荷動きの鈍化を伝える声が聞こえ、地合いの弱さが払拭されていない。

四日市では民族系元売り玉を扱う業者が、76.8~77円へ販価をさらに引き下げて、販売枠の消化を図った。旧外資系元売り玉を扱う業者も四日市や愛知で77.4円を提示。四日市の旧外資系元売りルートでは77円台前半の唱えも聞かれた。

愛知や四日市では、広域ディーラーなどから77円台後半の唱えが打ち出されていたが、やや割高感があった。

一方、個別交渉の側面が強いが、76.8円未満の玉も存在。なかには76円台前半で買い気を探る動きもあったという。

【製油所(未課税)】前日から0.1円安の78.8~79.2円。

下振れ。販売数量の確保を狙って、複数の

ディーラーが売唱えに下方修正を加えていた。

四日市では旧外資系元売りルートから78.8円の唱えが提示。民族系最大手元売りルートでは78.8~79円の唱えが打ち出されていた。大手商社玉を扱う大手ディーラーも、79円前後で買い気を探っている。民族系元売り玉を扱う業者は79~79.2円で買い気を探った。未課税玉は79円前後で商談水準が推移している節があった。なかには80円台の出物も見受けられるが、80円台は高値圏に位置している。

【9号地】前日から0.35円安の77.7~78.1円。

9号地もつれ安。販売枠の消化を狙った売り込みが展開された。

民族系最大手元売りルートから、複数のディーラーが77.7~78.1円で販売を進めている。他社玉をベースに販価を組み立てた業者は78.1円を超える唱えを示した。地場大手タンクルートでは78円台半ば~79円台半ばの販価が打ち出されている。

○重油

【製油所(LSA重油)】前日から0.15円安の77.8~78.2円。

小幅続落。白油と同じく、市況の軟化を織り込み、売唱えに下方修正を加える動きが高値圏を中心に観測された。

四日市では旧外資系元売りルートから77.8~78.1円で販売を進める動きがある。民族系元売りルートからは77.8~78.円の売唱えが提示。

愛知出しも軟調。旧外資系元売り玉を扱う業者などが、引き続き78円付近に売唱えを集めた。個別交渉では77.8円未満の売りもあったようだが、個別交渉の限定的な売り物とさ

れた。

【製油所(A重油)】前日から0.15円安の77.3~77.7円。

【9号地】前日比0.5円安の78.0~78.4円。

切り下がった。製油所同様に販売数量の確保を進める動きがある。7~9日渡しでは商社タンクルートの売り物が相場を牽引。78~78.4円の唱えが複数の業者から示された。特に78円の玉は買い妙味があるようだ。他社玉をベースに販価を組み立てた業者は78.6円などを打ち出していたが、この価格帯の玉は割高感がある。

◎阪神
○概況

製油所出しでは、未課税玉を除く白油が軟調。週末の買い気を探る動きが散見された。背景には翌週の燃料油補助金に対する予想減額幅の拡大があるようだ。

売り攻勢に対し、買い気も強かった。9日届け分を中心に、配車難を伝える声が複数の市場関係者から寄せられた。

○ガソリン

【堺製油所】前日から0.45円安の78.8~79.5円(揮発油税込み132.6~133.3円)。

続落。週末を前に販価を切り下げ、消化売りを図るディーラーが散見された。9日届け分を中心に、ローリー繰りにも混雑が見られたようだ。

7~9日出荷分では、民族系元売り玉での132.6~133.3円の売り物が広く見られた。旧外資系元売り玉では133円の提示がある。中堅元売り玉は133~133.3円で取引が展開した。他社玉の転売で販価を仕上げるディーラーは、133.3円を提示。133.3円を上回る販価では、価格面からの訴求は難しいようだ。

また一部、水面下では132.6円を下回る売り物も見え隠れ。ただし売り先は限られていた。

【油槽所】前日から0.45円安の79.2~80.0円(揮発油税込み133.0~133.8円)。

油槽所出しも続落。販価を見直し、週末の受注を喚起しようと試みるディーラーが専ら。

7~9日出荷分では、輸入玉をベースとした取引が133~133.8円で展開した。四国の中堅元売り玉での133.5~133.8円の売り物も手当てできる。133.8円を上回る提示へ買い意欲を示す買い手は多くないようだ。

民族系大手元売りはこの日、134円で市中調達したようだ。

【届け市況】EX ベースでの最安値は132円台前半と、続落している。132円台半ばまでが商談水準のボリュームゾーンだという。

週末を前に各社訴求を図り、小売量販店からの引き合いも回復傾向。ただし7日届け分よ

りも9日届け分の割合が大きいいため、週末の実売量を不安視する市場関係者もちらほら。

小売量販店からは、台風10号接近以降の出荷不調が伝わった。9月1週目では、前年同週比で15%程度のマイナスではないかと試算する声もある。出荷の回復について、9月中旬以

降に控える2度の三連休に期待を寄せる市場関係者が多かった。

【東商取】東商取10月限の帳入値はバージが前日と同じ81円(揮発油税込み134.8円)、中京ローリーも前日並みの同80円(同133.8円)。

【海上市況】西日本は6日現在、80円台前半で推移している。

○灯油

【堺製油所】前日から0.05円安の79.7~80.3円。

小幅安。前日の下値から買い気を探る動きが点在した。

7~9日渡し分では、民族系元売り玉を扱うディーラーが79.7~80.2円で売り唱え。旧外資系元売り玉では79.8~80.3円の売り物が見られた。他社玉の転売で販価を仕上げるディーラーは、80~80.2円を提示。最大手元売り玉、四国の中堅元売り玉はそれぞれ80.3円で手当てできるようだ。

【油槽所】前日から0.3円安の80.0~80.5円。

油槽所出しも下振れ。製油所対比で販価を見直す動きがあった。取引レンジは80~80.5円。80.5円を上回る売り物の、単体での荷動きは冴えないとの声がある。

【東商取】バージ10月限は前日と同じ80円、中京ローリー10月限も前日並みの80円。

【海上市況】西日本は6日時点で、79円台半ばで推移している。

○軽油

【堺製油所】課税玉が前日から0.3円安の76.2~76.9円、未課税玉が同横ばいの78.8~79.2円。

課税玉は切り下がった。仕入れ価格に燃料油補助金が連動する玉を扱うディーラーによる売り攻勢が激化している。週末の買い動意を得るため、販価に下方修正を加える動きが観測された。

これに対し、未課税玉はもち合った。最安値の下振れは見られるものの、取引水準には上振れも見られ、仲値は変わらず。

7~9日出荷分では、民族系元売り玉を扱うディーラーが76.2~76.9円を売り唱え。旧外資系元売り玉は、76.3~76.9円のレンジで取引が展開された。76.9円を上回る提示では買い妙味に欠けるとの声もある。

また、他ルート売り物はいずれも同取引レンジを1円以上上回るといふ。

未課税玉は78.8~79.2円と、取引水準に変化は見られるものの仲値は変わらず。課税玉対比ではどうしても割高に映るため、荷動きが乏しいと肩を落とすディーラーもちらほら。

【油槽所】油槽所出しが前日から0.3円安の77.7~78.7円。

油槽所出しも切り下がった。週末の買い気を探り、販価を切り下げる動きが見られる一方、製油所対比で割高な水準のため荷動きは多くないとの声もある。

課税玉は77円台後半から78円台前半で取引された。未課税玉は79円程度の販価提示が多いようだ。これにより、引き続き最大幅の1円レンジを採用している。

【海上市況】西日本は6日時点で、79円程度

で推移している。

○重油

【堺製油所】A重油は77.3～77.8円、LSA重油は77.8～78.3円といずれも前日から横ばい。

この日ももち合っている。販価を動かす動きは見られなかった。

7～9日渡し分のLSA重油では、旧外資系元売り玉で77.8～78.3円の売唱えがこの日も聞かれた。民族系元売り玉は、77.8～78.1円で調達可能だという。他社玉の転売で販価を仕上げるディーラーは、78～78.3円を引き続き提

示した。最大手元売り玉では、78.1円の売り物が残る。78.3円を上回る提示へ関心を示す買い手は稀という。

また一部、77.8円を下回る販価も見え隠れするものの、買い手は限られていた。

【海上市況】西日本では6日時点で、A重油が78円台後半、LSA重油が79円台前半で推移している。

◎四国

○概況

全油種で弱含み。前日に続き、次週の燃料油補助金の大幅減額予想を織り込み、業者間では販価の下方修正が散見された。一部では「月次販売枠は11日までに売り切りたい」（広域系、商社系）との声も寄せられ、スポット市場は売り一辺倒の展開となった。

○ガソリン

前日比0.75円安の79.6～79.8円（揮発油税込み133.4～133.6円）。

続落。民族系元売りルート of 売り込みが一層強まった。次週の燃料油補助金に4円近い減額予想が生じたことが要因となっている。

【坂出】9日渡し分までを対象に、民族系元売り玉を扱う業者や旧外資系元売り玉を扱う業者などは133.4～133.6円に販価を下方修正し、買い気を探った。足元は複数の業者の売り値が133.6円までに収斂していることから、133.6円を超えると動意が限られるようだ。一部では133円付近で売りに応じる業者もいるようだが、水面下の個別交渉とみられる。

また、小売業者向けについては「数量次第で相談ができる。14時時点では決まっていない」（商社系）との声が寄せられた。

【菊間】四国の中堅元売り玉を扱う業者などは133.5円に値下げし、受注喚起を図った。小売業者向けについてはEXパイプに換算し、131円台後半の売り物が出回っている。

【届け市況】香川県の中讃地区向けが、届け135円台後半で見積もりが出された。

【水島】民族系元売り玉を扱う複数の業者は132.7～132.9円の売唱え。一方で、小売業者向けはEXパイプに換算し、131円台半ばであればオーダーが入るといふ。

○灯油

前日比0.1円安の80.5～80.8円。

小幅安。安値圏では前日の価格の維持する業者が多いなか、高値圏の一部の業者から販

価を下方修正する動きが見られ、アセスメントレンジの上値がわずかに削れた。

【坂出】9日渡し分までを対象に、民族系元売り玉を扱う業者や旧外資系元売り玉を扱う

業者などは80.5～80.8円に販価を寄せて来ている。80.8円を超える玉も散見されるが、買い手が興味を示すのは80.8円までのようだ。

【菊間】四国の中堅元売り玉を扱う業者などが77.8円に値下げ。ただ、こちらの玉は向け先が限定されるもよう。

【届け市況】香川県の中讃地区向けが、届け82円台後半で見積もりが出された。

【水島】民族系最大手元売り玉を扱う業者や複数の仕入れ先を持つ業者などは79.8～80円の販価を維持した。「80円を超える玉が多いため、80円までであればオーダーを獲得できる」（広域系）との声が寄せられた。

○軽油

前日比0.3円安の77.0～77.5円。

続落。仕入れ価格に燃料油補助金が連動する玉を扱う業者による売り込みが活発し、商談水準を押し下げた。

【坂出】課税玉では9日渡し分までを対象に、民族系元売り玉を扱う業者や旧外資系元売り玉を扱う業者などは77～77.5円に値下げ。複数の業者から77.5円までの玉を手当て可能なため、77.5円を超えると動意が限られるようだ。一部では、局部的に77円を下回る売り物も出ているとの声が寄せられた。

未課税玉では、民族系最大手元売り玉を扱う業者や旧外資系元売り玉を扱う業者などが

ら、80.5～81.7円の玉が見積もりベースで出ている。

【菊間】課税玉では、四国の中元元売り玉を扱う業者が77.8円を提示したが、こちらの玉は主流ではないとの指摘がある。

【届け市況】香川県の中讃地区向けが、課税玉では届け79円台前半で見積もりが出された。

【水島】課税玉では、民族系元売り玉を扱う業者や他社玉を担いだ業者などが76.8～77円を提示。これらの価格帯であれば、一定のオーダーを獲得できるという。

○重油

A 重油が77.9～78.5円、LSA 重油が78.4～79.0円といずれも前日比0.05円安。

小幅安。前日の他社提示を鑑み、一部の業者から下値を試す動きが出ており、スポット市況は小幅に軟化した。

【坂出】A 重油では9日渡し分までを対象に、民族系元売り玉を扱う業者や旧外資系元売り玉を扱う業者などは77.9～78.5円の売唱え。一部では77.9円を下回る玉も見え隠れしていたが、個別対応のようだ。

LSA 重油は78.4～79円。A 重油、LSA 重油ともこれらの価格帯に該当しない提示もあったが、積極的にやり取りされた様子は窺えなかった。

【菊間】A 重油では、民族系最大手元売り玉を扱う業者などが79円を売り唱えている。ただ、こちらの玉に関心を寄せる業者は少ないもよう。LSA 重油はA 重油に比べ、0.5円高で推移。また、LSA 重油のみを扱う四国の中堅元売り玉を扱う業者は78.5円に提示を続け、売り込みを図った。

【届け市況】香川県の中讃地区向けが、A 重油の場合届け79円台後半、LSA 重油の場合80円台前半で見積もりが出された。

【水島】A 重油では、民族系最大手元売り玉を扱う業者や他社玉を担いだ業者など77.5～77.7円の販価を続け、買い気を探った。LSA 重油はA 重油に比べ、0.5円高で推移。

◎九州(福岡)

○概況

スポット流通玉市場は弱含み。販売不振やこれまでの出荷規制に伴うショートカバー買いの後退を受け、7日渡しから下値を探ってオーダー喚起に努める卸業者が増えた。また、次週の12日以降は補助金が現行から4円程度的大幅減額が視野に入り始めたなか、これにかかわる手持ちを保有している卸業者が攻勢に転じたことも影響した。

○ガソリン

【福岡】82.0円～82.4円(揮発油税込み135.8～136.2円)と前日比0.35円安。

東浜出荷、西戸崎出荷玉をベースとした各社の7日渡しからの唱えは135.8～136.2円以上に下振れ。出荷規制の解除に伴うショートカバー買いの一巡に加え、取引に一定の影響を及ぼす北九州出荷玉で136円以下の玉が市場で広がったことを材料視する卸業者が増えたことが影響した。

【他地区】宇部出荷玉を扱う卸業者は民族系元売り玉を扱う大手広域が売り姿勢に迷い、

これらの転売品の商いが停滞しているため、実勢が読めないと伝えられた。北九州出荷玉では135.5円前後～136円前後。とくに輸入玉であれば、補助金を差し引けばコストは130円を下回るため、利益確定の売りが出ている様子もあった。

八代、佐世保の各出荷地の卸業者は軽油の販売が出来ないため、トラブルを避けることを目的に価格提示を避けて様子見に後退していた。

○灯油

【福岡】81.8～82.3円と前日比0.2円安。

続落。東浜、西戸崎出荷玉を扱うディーラーの唱えは7日渡しから81.8～82.3円以上など、市場で82円を挟んだ水準で反応を探る動きが増えた。荒津出荷玉は82.3円以上と相対的に一段高の唱えが目立つが、販路は限定されたが、民族系元売り玉と見られる81.8円以下の売りが個別に売り込まれている様子も

あった。

【他地区】宇部出荷玉の唱えは78.8～79円、80円以上そのまま。北九州、小倉、八代出荷玉を扱う卸業者の唱えは81円台後半～82円台前半に下落。このうち、安値圏の玉は民族系元売り玉をベースとしているケースが大勢だった。

○軽油

【福岡】78.8～79.5円と前日比0.75円安。

続落。東浜、西戸崎出荷では課税で79～79.5円など、7日渡しからは79.5円以下で買い気を探る動きがやや広がった。北九州出荷で未課税が79.5円以下で一部流通し始めたことを材料視する卸業者が増えた。荒津や東浜では少数な

がら78.8円までの取引も浮上するなど、地合いの弱さは他の油種より目立った。

【他地区】宇部出荷玉の唱えは77.2～77.4円以上に反発。北九州、小倉、八代出荷玉を扱う卸業者の唱えは79.5円を中心に79円台前半～80円前後に下振れしていた。

○重油

【福岡】A重油は80.5～81.0円、LSA重油は81.0～81.5円といずれも前日比0.45円安。

西戸崎、荒津出荷玉を扱う卸業者の7日期限の唱えは80.7～81円以上。このうち、荒津出荷では80.5円以下の出物が厚みを増し、これを照準に下値を追う動きが加速したよう

だ。

【他地区】宇部出荷玉を扱う卸業者の唱えは77.8～78円以上。北九州、八代出荷玉を扱うディーラーの唱えは80円台前半～80円台半ばと変化を欠いた。

◎マーケットニュース
○貿易統計速報=8月中旬の原油CIF価格、上旬比3,835円安に

財務省・貿易統計速報(旬間ベース)によると、8月中旬の原油・粗油輸入平均CIF価格(JCC)はキロリットル(kl)あたり82,040円と、同月上旬比で3,835円下落した。7月の月間平均比では6,286円安い。

一方、8月中旬の通関量は同月上旬比63万3,000kl減の306万2,000kl。適用される為替レートは150.03円だった。8月上中旬のJCCは84,137円で、7月全体比4,189円安となっている。

○川崎市交通局=10～12月納め市バス軽油、届け107円弱で落札

川崎市交通局が6日に開札した10～12月納め市バス向け軽油1,043klの競争入札は、4ブロックすべてが届け107.1円で落札された。内訳は、Aブロック212klがシナナン、Bブロック296kl、Cブロック200kl、Dブロック335klが中日本商事。札入れには日本石販や大東通商、松田商店なども参加したようだ。3日開札の横浜市交通局10～12月分は届け108.02円で落札されている。

○陸上入札=広島市食肉市場向け10～12月納め灯油、朝日エナジーが落札

広島市食肉市場が6日開札した灯油126klを対象とする競争入札は、届け84.2円で朝日エナジーが落札した。前期比で0.2円値下がり。二番札は榎崎商会在が89円だった。

1～3月納め126klは12月6日に開札を予定している。

◎お知らせ
○リム創業40周年記念本『エネルギーの歩み』発売のお知らせ

リム情報開発は2月に創業40周年を記念し、『エネルギーの歩み』を刊行いたしました。石油メジャーの誕生から脱炭素化に至るまで、エネルギーの歴史をわかりやすくひも解くとともに、リムならではの市況解説もふまえた充実の一冊です。原油、石油製品、LNG、LPGの貿易統計に加え、年表も資料として掲載しており、業務や勉強に幅広く利用していただけます。この機会にぜひお申し込みください。

定価：33,000円(税込)※送料が別途かかります。お申し込みは以下のリンクから(サンプルあり)。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/40book/>

【お問い合わせ先】

リム情報開発株式会社／電話：03-3552-2411／E-mail：info@rim-intelligence.co.jp

○電力データCD・2023年度版の販売開始について

リム情報開発は、電力入札データの2023年度版CDを、7月17日から販売開始しました。初版となる2014年度版のリリース以来、各方面からご好評をいただいております電力入札データの2023年度版となります。最新版では、2023年4月から2024年3月までの1年間に、全国の公共機関が公募した電力調達について、詳細な情報を提供いたします。2023年度版は、収集件数4,071件(昨年度4,168件)で、うち比較可能なデータは2,058件(同1,000件)です。

※「比較可能データ」：予定供給量、契約電力、契約金額がそろった案件を集計(入札不調、入札条件が不明などの案件は除外)

関連記事 <https://www.rim-intelligence.co.jp/news/data/1777043.html>

お申込みこちらへ <https://www.rim-intelligence.co.jp/contact/form/powerData.html>

◇弊社ウェブサイトURLは www.rim-intelligence.co.jp

◇リム価格は登録商標です。登録番号は第5387777号。

※リムレポートの転送は著作権により堅く禁じられております。購読契約者である組織以外だけでなく、同契約者の組織内の他部署、支社、支店などへの転送も出来ません。本レポートの全部もしくは一部の転載も禁じられています。著作権違反が発覚した場合、違約金が発生することがあります。本レポートに記載された情報の正確性については万全を期しておりますが、購読者が本レポートの情報をを用いて行う一切の行為に関して、リム情報開発株式会社は責任を負いません。また、天災、事変その他非常事態が発生し、または発生するおそれがあり、運営が困難となった場合、レポート発行を一時的に中断することがあります。

事業所一覧

[東京本社]

Tel: 03-3552-2411, Fax: 03-3552-2415

e-mail: info@rim-intelligence.co.jp

[シンガポール支局]

Tel: 65-6912-7359

e-mail: lim@rim-intelligence.co.jp

[北京支社]

Tel: (86) 10-6498-0455, Fax: (86) 10-6428-1725

e-mail: guanhong@rimbj.com

[上海支社]

Tel: (86)-21-6760-6330, e-mail: rim_sh@rim-intelligence.co.jp

(C) 2024 RIM INTELLIGENCE CO.

お申し込み >

試読 >